

大雲山龍安寺は等持院の西にあり。

開基は義天和尚、文明年中に細川右京大夫勝元いとなみしなり。初は左大臣実能公の山荘なり。徳大寺公有公の代、細川勝元此地を乞請られしなり。本尊は釈迦仏、大元達磨の像は東西の壇にあり、恵光禪師の像、細川勝元の像を安ず。堂の内天井の画は東福寺兆殿司の筆なり。「蟠龍迦陵頻」方丈は勝元の館書院を以ていとなみ、庭前の築山、池辺の風色は勝元の物数奇なり。此地北は衣笠の山を覆ひ、南は遙に關て一陽来復より温気めぐる事早し、池の面には水鳥むれあつまり、玄冬の眺をなす、是を龍安寺の鴛鴦とて名に高し。